東方逆行伝

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
東方逆行伝

【Ｎコード】
Ｎ０８７０Ｓ

【作者名】
ハル

【あらすじ】
俺は一般人だ。
特にこれといった趣味もなく、ただ毎日を無気力に過ごす、そんな１７歳だった。

ーーある時、気がついたら見知らぬ場所にいた。
ここはどこだ？　俺は……誰だ？

そんな俺が幻想郷で繰り広げる日常とシリアスとほのぼのとラブと

バトルと愛の物語、なのかな？　まぁ、そこはね。　俺が紡ぐ物語の読み手たる貴方たちが己の目で確かめてくれよ。

プロローグ「世界を逆しまにすると、人は過去へ戻るのだろうか？」

……おーけーおーけー。状況を整理しようか、うん。

えーっと俺は朝家を出ました→学校行きました→退屈な授業を受けました→帰りました→家着きました→寝ました→夢見てる（おそらく今ここ）

ということは夢なのか？　にしちゃあリアルだな。今俺がいるのは鬱蒼と茂った森らしき場所なんだが……植物ムリ。

俺アレルギーなんだよね、花粉とか。大抵の人は「杉花粉」だけどさ、俺は「花粉全て」のアレルギーなんだ。だから植物ムリ。植物相手だと、これなんてチート？状態になるから（植物の方が）

「っていうかさ。マジでどこよ、ここ。ぜってー夢じゃないって、現実逃避にも限度がある」

うーん、可能性としては誘拐なんかが浮かぶんだけどな。俺ん

家は父・母・俺の三人家族でアパート暮しだから金無いんだけど。誘拐犯さん、もうちょっと計画的にね？

ま、誘拐ない。だって人質をこんな森の中に縛りもせずに置いとくとかない。だからこれは削除。

じゃあなんだ？　……ふむ。非現実的なものしか思い浮かばん。でもそれで説明がついちゃうんだからいかんねぇ。

おそらく、これはトリップと呼ばれるモノだ。日本では神隠しなどと言われたりもするが、別にどちらでも良いだろう。

「むー……まぁ、とりあえず考えてるより行動した方がいいか。とっりあっえず～人を探そう」

イェーイ、人がいないＺＥ☆

はっはっは、もうなんかテンション上がってきた。え？　さっきまでの冷静な感じはどこいったって？　何をおっしゃる、あれは現実逃避（小）に決まっておろう。花粉症うんぬんが（中）だな。

「ひーとーいーまーせーんーかー！」

かーかーかーかーかー……

虚しく木霊する俺の声、それを耳にした俺の寂しさはとどまることを知らない。俺の悲しみが有頂天だ！

おぅ、俺の頭も遂にヤバげ？　発狂とかマジ勘弁。白い壁の場所で心だけが壊れて霧の中を探したら夜にとり残されるとかやだよ。

「……おっ？　なんか声する、人か？」

たったら～たらたらたらら～♪（カービィの音楽で）

夢覚める方法って何があったかな～。最も一般的なので行くと頬をつねるんだけど。痛みを感じれば大抵の夢は覚めるからな、稀に例外も存在するが。あとは明晰夢を見る方法だが、常日頃から夢と現実の区別をつける、というのもある。たまに自分の手を見て「今は現実だ」と言う。これを癖にして夢の中でも行えれば明晰夢、つまり好きなことが出来るんだ。まぁつまり何が言いたいかと言うとだね、

「グオォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォォ！！！」

目の前に恐竜がいっぱいいるんだよねー……幸い、気付かれちゃいないけど。あー、あれティラノサウルスかな。あっちはプテラノドン。うぉ、トリケラトプスかっけー。

HAHAHA、何故こうなったし。

神隠しやトリップかと思ったが……タイムスリップとは。いやはや、恐れ入ったよ（混乱しておかしくなったようだ）

にしても、このままじゃ死ぬな。食料や住居、更に外敵から身

を守る術など様々な問題が山積みだ。ま、いろいろと思う事はあるけど、今は言える事は一つ。

ーーさて、どうやって生き延びる？

プロローグ「世界を逆しまにすると、人は過去へ戻るのだろうか？」（後書き）

ん～……初の東方です。

作者は東方未プレイなので。

いろいろとおかしいところがあると思いますので、ご指摘、感想、疑問、批判、など受け付けております

第1話「とりあえず状況確認、及び思い出してみる」

「ふーんふふーん♪　上手に焼けました～！」

ただ今俺は、たまたま発見したとある洞窟にいる。入り口は人間大の大きさしかないので恐竜たちも入ってこれないから安全だよ。そんで肉焼いてるところだよん。よろず１０連焼き！

……ゑ？　何言ってるかわかんない？　うん、俺もわかんない。

なんかさー、元の時代で知り合いの、まぁ、いわゆる「オタク」って呼ばれる奴らから「おっ、知ってんの？」的なことを言われてたんだよね。でも俺としたら「何が？」って感じ。

たぶん何かのアニメや漫画のセリフと重ねてるんだろうな～、俺は漫画ってジャンプとかサンデーとかしか読んだことないんだが。

アニメは遊戯王とかブリーチとか。だから何のことなのかよくわからん。

たまに口をついて出る事ってあるだろ？　それが周りに凄いウケる時ってさ。そんな感じでたまに閃くんだよ。……それがアニメや漫画のフレーズばっかってどーよ。

「はぁ……鬱だ。　ん？　おぉ、慰めてくれるのか？　ありがとな～（ナデナデ）」

俺が肉食いながらため息をついていると、トコトコと犬（みたいな獣）と猫（のような動物）や兎（に見える小型生物）なんかだ。いわゆるペット。

可愛いよー、コイツら。犬はもふもふで癒されるし、猫はにゃ～にゃ～で和むし、兎はチョコチョコ動いてて面白いし。

ちなみに名前は犬がハク
猫がリン
兎がイナバだ

理由としてはハクは白いから
リンはなんか、凛としてるから

兎は……言わずもがな

まぁこんな時代だしさ、癒しがあるって結構重要なのさ。1人暮らしの人でもペット飼えば寂しくない理論？　逆に言えばペット以外とコミュしない人？　うわダメ人間。

「わんわんっ！」

おぉ、ハク。ありがとな～、慰めてくれて。白い毛並みがもふもふだー。

「にゃーにゃー！」

おぉ、リンもな～。忘れたりなんかしてないぞ？　笑顔が可愛いなぁ、もう！

「ウサウサー！」

イナバもさんきゅす（さんきゅー＋さんくす）。ちょっと鳴き声がおかしい気もするけど……可愛いから許す♪

「あ、そだ。ほ～ら、肉焼けたぞ。あぁハク、そんなにがっつくな。リンも猫舌なんだから無理せずゆっくり。うわ、イナバ！　お前

口小さいんだからいっぺんに食うな！　ほら水！」

「う、ウサ～」

「あぁー、良かった。まったく、気をつけろよ？　お前らが死んだら悲しいんだからさ？」

「「「わん！（にゃー！）（ウサ！）」」」

うむ、今日も今日とて可愛く素直な子たちだ。

はーい、現在はあれから数世紀くらい経ちました。いや正確な年数とか憶えてないよ。数年で数えるのやめた、ってか面積足りん（日付書き記す的な意味で）

うん、なんかねー。俺、死なないや☆　てへっ♪

……我ながらキモい。不快にして申し訳ない、でも事実なんだって。なんか知らないけど死なないんだよ、俺。

こっちに飛んで数十年した時に、ふと水に映る自分の顔を見てビックリ。とてつもなく若々しかったんだもの。少なくとも5～60はいってる人の顔じゃなかったね、あれは。

それから推測するに、俺はタイムスリップらしき現象によって体の時が止まる、みたいな状態になってるんじゃないか？　と判断した。……いや俺は頭良くないからさ、こんな仮説立てるので精一杯。本当のところは不明だけどさ。

それとさー、不老だけじゃなくて不死にもなったっぽいわー。

だっていっぺん誤って崖から転落したらさ？　身体中の骨や臓器がズタボロになった時に、なんとか意識あったんだけど傷がみ

るみるミルトン治るのよ。

いやー、あれはビビったわ。俺も大概人間辞めたな、って思ったねマジで。

ま、そんなこんなで生きてます。それに長年サバイバーな生活してりゃあ身体能力が上がるのなんのって。いやー、元の時代でキャンプとか登山とかアウトドア系好きで良かったわ。縄文土器とか作れますよ、俺。

土さえあればいけるし、火は歴史通り雷から作れるし（あの木でガリガリやるのは紐がないからできんかった）。まぁ米とかは、うん。流石に人がいない時代だし無理。肉や果物なんかで我慢っすよ。

「ハハハ……。今思い返すと、スゲーな」

「わん？」「にゃー！」「ウサ！」

「やー、良い子良い子。ホント可愛いねぇ、お前たち」

何時ものように皆の頭を撫でてやる。すると目を細めて耳が垂れる、これはたぶん喜んでいるんだろうなー、と解釈するけど間違ってはいないはず。

「あぁ、まだ問題があったな。俺の名前が……」

そう、俺の名前がわからないんだ。いわゆる記憶喪失？　名前以外は思い出せるのにな～、まぁどうせ会話相手もいないから名乗る事もないんだけど……そのうち人類が誕生したらいけるか？

名前考える必要があるかな。

まぁ俺の現状はそんな感じ。理由は不明だが不老不死になったらしいから、とりあえず人類誕生まで様子を見るさ。何、ほんの数万年の辛抱だ。

そっから1、2億年経てば文明も出来上がるだろ。道は果てしないが……まぁ、何とかなるさ。沖縄ではなんくるないさー、だっけ？　希望が見えたから耐えられるさ、たぶん。

第2話「いざ綿月へ～訪問編～」

うむ、とりあえず人類は生まれたぞ。

……えっ、早い？　だってあんまりめぼしい事は起きなかったぞ？

人類の先祖の、なんだっけ？　アウストラロピテクス？とやらに出会って、神と崇められたり（何故か言語は通じた）。

迷惑をかける生物達を日々躾けていたら畏れ半分尊敬半分な感じになったり。

なんかでっかくて威厳のある石に「要石」って名前掘ったんだが、それが無くなってたり。

縄文辺りでようやく米が入ってきて狂喜乱舞してたら、「神の怒り」的に捉えられて米が廃止されそうになって（全力で止めたが）。

神話の時代にあった岩戸がくれなんかもあったが、俺が岩戸を叩いたら岩が割れて皆ポカーンになったり。

因幡の白兎（ちなみにイナバの子孫）が鮫に喰われそうになったから鮫を撃退したら、ただでさえ高かった兎から尊敬が信仰・崇拝レベルにまであがったり。ちなみにハクやリンの子孫も俺との仲は良い。

そんで今、時代はまだ縄文辺りだと思う。鉄が来てないし……あれって確か弥生だよな？　いや、まぁ、なんか街は鉄どころの話じゃねーんだけどさ。

……うん、なんかさ。ビルとか普通に建ってんのよね。車とか

さ、完全なるオーバーテクノロジーだよな、これ？　しかも空中にディスプレイ表示とか人間なみの精巧さのロボットとか、完全にＳＦの世界。ま、でも神様信仰はあるよ？　だって俺崇められてるもん。

あぁ、そういや名前決まったよだいぶ前に。

いやだって、皆が「あなた様のお名前は！？」的な感じで聞いてくるんだよ？　……何千年も信仰しといて何を今更、って思った俺はどこもおかしくない。

それでパッと思いついた名前が「神輿屋千年（みこしやちとせ）」って名前。女っぽい名前とか言うなよ？　……言ったやつは神隠し、って暗黙の了解が皆の間で出来てるから。過去に数人そんなやつが……コホン。

ま、なんやかんなで俺はこの街っていうか世界の神として君臨しちゃってる訳なんですよ。そーいや他の神様とも知り合いだよ？
出会ったのは岩戸がくれの時よりは前だな～、具体的に何時の出会いかは忘れたけど。

そこそこ良好な関係を築いてますよ、他の神様も神託授ける時は俺を仲介してくるくらいだもん。「人間には我々の姿を見せる訳にはいかんのだ、ってかめんどい」とはイザナギの言葉。

ほんで今は俺がいる街の最高権力者（俺を除く）の綿月家とやらに向かっている。……なんでも、大事な話があるとか。

そして着いたのはとても大きな日本家屋。いわゆる武家屋敷の平屋で、奥行きがすさまじい。扉をノックすると中から「はーい」

と少女の声が聞こえてきて扉が開く。

「どちらさまですかー……って、千年さま！　すすすすいません！」

「おぉー、よりちゃんか。良いって良いって、気にすんなー」

「いえ！　千年さまに対してあの様な態度、私が許せません！何卒、罰を！」

そんな風に片膝をついて頭を垂れながら言ってるのは、綿月家の次女の依姫（よりひめ）って娘。紫の髪を後ろで大きく縛ってある凛々しい感じの、どっちかというとカッコイイ系の女の子。いや可愛いよ？でもカッコイイって方がしっくりくんのよ。

そんでまぁ、さっきの言動からも分かるかもしれないけどさ。……かなりの俺崇拝者。いや自分で言うのはなんか恥ずかしいな。

ま、とにかく良くも悪くも真面目な娘なんさね。もうちっと人生緩く生きないとねー。

「どうしても？」

「どうしてもです！　不敬罪による打ち首も島流しも覚悟しております！」

おぉう、何故そこまで大事に。別に扉で姿見えんかったし？
俺も声出せば気づかれただろうから悪いの俺だと思うんだけど…
…それじゃあよりちゃんが満足しないよね。

「あー……じゃあ罰を与えます」

「はっ！」

ヒシヒシと「自殺オーラ」的なのが漂ってくるので、その幻想（ざいあくかん）をぶち壊す！

「これからこの事を気にしたり罪を求める事、及び責任を取る行為などを禁止する」

「……え？」

片膝をついていた体制から驚きの表情で顔を上げるよりちゃん。

「ちゃんと理由もあるぞ？　よりちゃんはさ、この件で責任を感じてるだろ」

「そ、それはもちろん！　しかし何故その様な罰を」

「ここまでして責任を取れない、ってのはよりちゃんからしたら嫌だろ？　だから充分な罰になるよ」

「し、しかし「それに、これに逆らう事こそ不敬だと思うよ？」……承知しました」

少し不服そうだが了解の意を示すよりちゃん。すると奥から物静かな雰囲気を纏った威厳ある男性が現れる。よく見るとその後ろにもう一人、帽子を被った金髪の女の子がいる。

「真に申し訳ありません、千年さま。依姫には何時も言っているのですが……」

声をかけてきた男性の名は綿月剣王、現綿月家の当主って奴さね。俺とは旧知の仲で、けっこう気易く喋れる相手の一人。見た目の厳格な雰囲気とは裏腹にけっこうおちゃらけた面白い奴。公私を混同しないから、プライベートな時とか以外は敬語で話してくる。

「んー、確かに。そろそろ罰の種類が尽きそうだよ」

今までもちょくちょく会っちゃいるんだが、たまに何かヘマをやらかす度にこんな事を言ってくるからな〜。許すための罰が無くなりそう。

「まったく……依姫ったら。そうやって千年さまを困らせるのも迷惑になるのよ？　そこのところもきちんと理解しなさいよ？」

そんなことを言うのは、綿月家の長女である豊姫（とよひめ）だ。容姿の説明はまぁ、さっきもしたけど。この娘は「可愛い」ってより「綺麗」ってイメージかな？　お姉さんな空気、って言えばわかってもらえるだろうか。実際お姉さんなんだが。

「姉上。そうは言ってもこれは私の至らなさが故で「はい止め、あなたその手の話題になると長いのよ」……すまない姉上」

「私からも頼むぞ、依姫。千年さまはそういった態度をあまり好ましく思っておらん。だからなるべく気にしない方が良い」

「よっくわかってるじゃん、ケンちゃん？」

「……ケンちゃんは止めてください」

ケンちゃん、ってーのは剣王のあだ名。ぶっちゃけ単純。

でも俺にあだ名で呼ばれるのって珍しいんだよ？　親しい奴や気に入った奴しかあだ名で呼ばないし、それ以外は名前とかかな？

そんで依姫が未だにわーわー言うから「禁止」って言ったら押し黙った。あぁこれからはこうすれば良いな。うん、そうしよう。

そして、俺はケンちゃん達に案内されて屋敷の最奥部ーー【剣王の部屋】と書かれた場所へと案内された。

第2話「いざ綿月へ～訪問編～」（後書き）

これであってるんだろうか……

自分は歴史がよくわからない、キャラがよくわからない、性格がよくわからない。

ないない三拍子揃ってるんで……なにかおかしな点があったら進んでご指摘ください。

ちなみにこれ以降はまだ書いてないので、書けたらＵＰします。
１ヶ月に１度はあげると思いますんで。

質問、感想、批判、なども受け付けておりますのでー。荒らしはご遠慮くださいね？

第3話「月に行く？　八意家に行く！」

そこは和室。畳を敷いた部屋であり、掛け軸に蕾、茶道セット等日本っぽい物が置いてある、少し間違ってる気がする部屋。

そんな部屋に俺こと神輿屋千年と、この街の最高権力者である綿月剣王が向かい合って座っている。ちなみに剣王が上座だがそこは仕様だ。

「それで、今日お呼びしたのは他でもない「月移住計画、だろ？」

……やはりご存知でしたか」

「あたりまえー。これでも神よ、俺？　情報は色んなとこからやってくるってね」

月移住計画。

それは穢れた地上に愛想を尽かした人間が穢れのない月へと移住しようという計画。

まぁ実際は妖怪とかの進行が激しくなってきたから逃げよう、って言う権力者が大半なんだけどね～。いやぁ権力者って保守的でいかんねぇ、俺みたいにドーンと構えないと。

「千年さまは、月への移住についてどの様に思われておいでですか？　良ければ聞かせていただきたい」

「ふむ、月ねぇ……。別に、俺は良いと思うけど？」

そうきっぱりと言い切る俺に、少し驚いたような顔をしてこちらを見るケンちゃん。ん～？　なんか変な事言ったか俺？

「は、はぁ。ずいぶんとあっさりしたお答えですな」

なんだそんな事か。

「別にー？　だって穢れない月に行けば死なないし歳も取らなくなるじゃん。そんなの、大抵の人間はなりたいに決まってるよ」

「……千年さまが言うと説得力がありますな」

おうよ。伊達に６０００万年近く生きてないぜ！　かなりの年の功だね～、俺より年くってる奴っていないしな～、俺もジジイだなぁ。

「……千年さまがご賛成ならば、我らに反対の理由はありませぬな」

「ま、決定で良いんじゃね？　それにそん時ゃ俺も協力するぞ？」

「そう……ですね。おそらく妖怪たちが黙ってはいないでしょうし、殿を頼んでもよろしいでしょうか」

「そんな言い方すんなって。ケンちゃんはただ『命令』してくれれば良いんだからさ？　最高権力者がそんな下手に出るのは感心しないぜ～？」

ハハハ、と2人で笑いあった後にその後の計画を話しあってから俺は綿月の家を出た。

ふ〜……あー、肩凝った。あぁいう堅苦しいのは苦手だねぇ。といっても俺はたいして真面目にしてないけど？

さーて、とりあえず八意ん家でも行くか。綿月と八意ってこの街でもっとも権力デカいし報告義務あるしー。まぁ俺より高い権力者がいないから、実際は無いに等しいけどね♪

そしてとーちゃく！　家の造りはこれまた典型的なダ〇ワハウス。なんであるとかツッコんだら駄目だよ？　そしたら負ける気がする、何にかは知らんが。

「そーおーくーん！　あーそびーましょー！」

ピンポーンとチャイムを鳴らして目当ての人物の名を呼ぶ。すると中からドタドタと慌ただしく走ってくる音が聞こえ、勢いよくドアが開く。

「千年さん！　その名前で呼ばないでくれも何回言ってると思ってんですかぁーー！！」

そう言ってドアから顔を出すのは、八意家当主の八意早雲。あだ名はそうくん♪　顔立ちは俺とは違って茶髪のイケメンという羨ましい感じ。

そんなイケメン（羨まC～）がハァハァと息を荒げて俺の前に……

「え、何。お取り込み中だった？　うわごめん。ちょっと出直s「違いますよっ！　何か用があるなら早く入ってください！」おっじゃまっチョリ～ス」

勢いよく手を引かれて連れられた先はリビングだったーー。別にトンネルとかは抜けてないけど。

そこには理性的な雰囲気をさせた1人の少女と、優しそうな女性がいた。

「あらあらアナタ。そんなに大声だしたらご近所さんに迷惑よ？
千年さまもすいませんねぇ」

「そうよお父さん。それで恥ずかしいのは私たちなんだからね。あ、千年さま。こんにちは」

「はぁ……はぁ……。お、お前らは、もう少しこの父の苦労を察して敬ってくれ……」

そこにいたのは、早雲の嫁の八意廬と娘の八意永琳だった。

第3話「月に行く？　八意家に行く！」（後書き）

なんか変なとこで区切ったなー

まぁ駄文しか書けない作者にはこれが限界……

第４話「働いたら負け？　ハッ（嘲笑）」（前書き）

更新遅れたナー

第４話「働いたら負け？　ハッ（嘲笑）」

「えーりんえーりん、何作ってんの？」

「これですか？　？これはホルモンバランスを崩して性別を反転させる薬ですよ」

？？へー。何気に危ない薬を作ってる事にはスルー。
？？何故ならこの世界ではわりと普通だから。
？？整形とかがちょっとしたライトを浴びるだけで終わるような科学力だもの。
？？ドラえもんも真っ青さ！

？？あ、何でえーりんがそんな事出来るのかって？　？
？？いい質問だね！

？？それはな、この世界には【能力】と呼ばれるものが存在する。
？？……いやいや俺はマトモだ、だからその電話をしまってくれ。
？？あ、石も投げないで。

？？確率で目覚めるらしい。
？？一家全員が能力持ちだったり、一国家まるまる能力無しなんてのもザラだ。
？？能力も千差万別で目覚めるきっかけなんかも人による。

？？ちなみにえーりんは【あらゆる薬を作る程度の能力】だ。
？？〇〇程度の能力、ってのは仕様らしい。
？？ぜったい程度じゃないよな。

？？そういや卑弥呼とも知り合いだったんだが、あいつは【神のお告げを聴く程度の能力】だったな。
？？史実では未来予知とか言われてたが……本当に予言を受けてたんだな。

？？あ、俺も能力持ちだぞ？
？？強いと言えば強い能力、その名も【必要を満たす程度の能力】だ。

？？まぁ、条件付きだが願いを叶える力だよ。
？？その代わり条件もキツイけど。
？？だって【必要】を満たすんだぞ？
？？お腹空いたから食べ物出ろ、とか出来ないぜ？
？？まぁ、餓死しそうなほどに追い詰められたら発動できるが。

？？読んで字の如く、【必ず要る】場合のみの能力だからな。
？？地味強い……ような、そうでもないような。

「千年さま？　？如何かなされました？」

「……む？　？あぁ、いや、ただちょっと考え事をね。すまんすまん」

？？えーりんはよい娘だねぇ。
？？ナデナデナデリーヌ。

「……千年さま。我が家に何か用があったのでは？」

？？ん？　？あっ、そうだったねぇ。
？？いや～、ごめんごめん。
？？そーくんの家が居心地良いから忘れてた。

？？そうくん言うな、と何やら聞こえた気がしたが気のせいだろ。
？？英語で言うとウッドスピリット。

「ほらほら、あの、えーと、あれ。……そう！　？月移住計画！　？あれについて聞きにきたんだ！」

「何で聞きにきた張本人が忘れてるんですか……」

「まぁまぁ貴方。それで、千年さまはその事については如何お考えで？」

「ま、綿月ん所とも話したんだが、俺は賛成。でも月には行かない」

？？俺がそう言うと二人とも「やっぱりな」って顔をして微笑む。
？？えーりんは薬作ってるから話聞いてない。
？？そしてこの後の方針について語り合うが、やはり綿月と同じで
「千年さまが賛成なら逆らう理由はありません」って事だってさ。
？？……何か良いねぇ、信頼って。

？？っと、計画まではあと3年。
？？さーて、如何やって過ごしますかね？
？？ぶっちゃけ俺は殿を務めるから戦闘面以外にすることがない……
……あれ、俺って役立たず？

？？いやいや、そんな事は……そんな、事は……あるのか？
？？あれ？　？そう言えば俺って何もしてなくね？

？？待てよ。
？？普段の生活を振り返ってみよう。

？？まずは朝の１１時に起きるだろ。
？？それから飯食って、テキトーに街を見回って、暗くなったら街の警備に加わって、日付が変わったら帰る。
そして寝る……何もしてない！？
？？警備以外はニートじゃん！！

？？うわ、今気付いたとか無い。
？？ＮＥＥＴとか……前世でもなった事ないぞ。
？？ニートって人として駄目だと思うんだ、いやマジで。

「うん、明日っから働こう。とりあえずマクド〇ルドでレジ打ちでもするか……」

？？時給８８０円だったかな？
？？確かシフトは月～金の内の３日間で、１日４時間だった気がする。
？？１週間で１万ちょっと稼げるな……よし、働くぜ！

？？

～ｉｎマック～

「あの、働きたいんですけど」

「あ、はいって千年さまあぁぁ！？　？す、すいません！！」

「いや働き「お金ですか！？　？どうぞお納めください！！」たい……おいおい」

「らんらんるー☆」

「あ、ドナルド」

～ｉｎミスド～

「すいませーん」

「あ、千年さま～！　？どうしました？　？ご注文ですか？」

「働きたいんだけど」

「え？　？まったまた～♪　？冗談がお上手なんですからっ♪」

「いや本気で「あ、これ新作のポン・デ・バナナと付け合わせの三倍アイスクリームです。どうぞ」えと、ありがと？」

～ｉｎケンタ～

「働「いいいいいらあぁぁっっしゃあああいいいませぇぇぇ！！　？ヒャッハァーッ！」……」

「おっ、ちとせんチョリース。なになに〜？　？俺様特性のイケてる☆チキンでも頼みにきたの〜？」

「いやだから働きに「その心意気は良いよー！！　？何時も通りチキンとカーネル人形のセット1入りまあぁぁぁぁぁぁぁぁすぅぅぅぅ！！！」聞けよ、人の話」

「……はぁ、結局いろいろと貰って帰ってきてしまった」

？？何で誰も俺の話を聞かないんだろ……。いや仮にも俺は神なんだし恐れるのは分かるけど。
？？1人目しかそういう態度してなかったけどさ？　？ケンタなんかタメ口上等だったけどさ

？？？

「はぁ……不幸だ」

？？？もう開き直る。

？？？働かないんじゃない、働かせてくれないんだ！

？？？

『だから僕は悪くない』

『僕は被害者だ』

第４話「働いたら負け？　ハッ（嘲笑）」（後書き）

あぁ、ダメだこりゃ

駄文を通り越してるよ……

感想欲しいね、てか作者は東方未プレイなのが痛いね

幽々子は嫁である。異論は認める

でも最近えーき様とさとりんも好きになって……ち、違うんだ！

これは浮気じゃｎ／ピチューン／

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0870s/

東方逆行伝

2011年10月8日13時39分発行